

# 私立 清泉女子大学

取組名称 文学部単科女子大学における就職意識向上のための総合支援

取組担当者 文学部 教授 吉岡 昌紀

## 1. 本学の概要

清泉女子大学の前身は、1935(昭和10)年4月、東京麻布三河台にある旧志賀直哉邸に創立された高等女学校卒業生対象の清泉寮学院である。1950(昭和25)年4月カトリック系文学部単科の女子大学として国文学科、英文学科合わせて43名の学生、専任兼任教員計43名で、学問を通じたキリスト教的全人教育を理想に掲げ、横須賀に開校された。1962(昭和37)年、東京都品川区に移転、現在に至っている。

現在は、日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科、地球市民学科の5学科からなり、計1,913名の学生が学んでいる。

建学の精神は、キリスト教ヒューマニズムにあり、「まことの知・まことの愛」(VERITAS et CARITAS)の追究をモットーとしている。少人数教育による人格的触れ合いを通して、自分で考え、判断し、決断することのできる女性、また自国の文化と異文化を理解し、地球市民としてともに生きる姿勢を大切にする女性を育成する。

## 2. 本取組の概要

経済環境の急激な悪化に伴い、女子学生の就職状況は厳しさを増すばかりである。学生たちは気ばかりがあせり、明確な自己の指針がないまま就職活動に臨み、間もなく混乱に陥る、という傾向が強くなってきている。大学に入学することのみを目標として受験勉強をして入学してくる学生も多く、彼女らは4年間の学生生活を目的意識を持たずに過ごしがちな状況にある。そのような学生は、自分が何に興味を持っているのか、自分が何に向いているのか、又、将来どのような職業に就いたらよいか分からない、と悩む者が多い。複雑な社会環境、多様な価値観、女子労働の様々な雇用形態の中でこの問題を解決するためには、低学年次から職業観、職業意識を涵養する必要がある。

こうした状況を踏まえ、文学部単科女子大学である

本学では、専門教育では必ずしも十分に対応できない職業観を涵養するためのキャリア形成支援、社会人基礎力育成に低学年次より、正課、正課外の両面から段階を追って取り組んでいる。

具体的には、学生が時間的にも精神的にも余裕のある低学年次に各界で活躍する職業人の講演を聴くことにより、社会を見る目を養い、働くことの意味を考え、「社会に目を向けて自分の将来について考える準備」を整える。この準備段階を経て、就職活動年次には、「Placement Guide」等の作成配付、文章力養成、業界研究、就職動向の把握、マナー講座等、就職活動に向けての実践的な準備を進めていく。本取組は、4年間を通して学生が自信を持って社会に出るための支援体制を教学一体となって構築するものである。

## 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

### (1) 趣旨・目的

低学年次から段階を追って職業観、社会人基礎力を涵養し、また、大学4年間の勉学に対する動機づけを高めることを通して、実践的な就職支援の強化を図る。低学年次には、社会の実情を知るとともに、自己を深く知り、自らに適した進路選択をしていく力を培う。

3年次以降には、就職活動に向けての実践的な準備を進め、自己のキャリアプランに即した実際の就職に向けて、一步を踏み出す力を養う。

### (2) 達成目標

本取組は、職業観育成及び就職のための実践的な準備を目標としている。具体的には、学生一人ひとりが、  
1) 生涯を見通したキャリアプランを構築すること、  
2) その実現を意識しつつ大学で主体的に勉学をすすめること、3) その実現に結びつく職業を見出すこと、  
4) 自信を持って社会に踏み出すための社会人基礎力を獲得すること、5) 実際にその職業に就くための活動が実を結ぶこと、を目標とする。

## 4. 本取組の具体的内容・実施体制

### (1) 具体的内容

#### (i) キャリアプランニングⅠ

主に低学年次を対象に実施する正課授業。人生の中で仕事をどのように位置づけていくのか、「人生と仕事とのかかわり」を考える。各界で活躍する職業人の講演や卒業生によるパネルディスカッションを通して社会の実情や様々な生き方を知り、卒業後の進路や人生設計を視野に入れた上で、学生生活をどのように過ごしたらよいかを考える。職業観の育成、キャリアプランの構築、大学での勉学に対する動機づけの高揚を図る。

#### (ii) キャリアプランニングⅡ

就職活動を間近に控えた3年生を主に対象とする就職向け実践的な内容の正課授業。各自が学びつつある豊かな教養とそれぞれの専門分野の知識・技能をベースに、実社会で働くための更なる力をつける。エントリーシート作成に役立つ「文章力養成講座」、様々な業界から社会を考える「業界を知る講座」、U・Iターン就職について、4年生の内定者によるパネルディスカッション、マナー講座等、豊富なメニューを用意する。企業や社会の各分野で活躍している方々の講演を通して実社会に触れ、より具体的に就業への意識を高め、就職への実践力を身につける。

#### (iii) 就職ガイダンスの実施

第1回就職ガイダンスを3年次の5月に行い、翌年4月まで年7回実施する。就職活動の全体スケジュール、現在の就職環境について、雇用形態の違いによる生涯賃金格差、自己分析講座、業界研究の仕方、適性検査について、等、就職活動を進めるにあたって必要な知識が段階を追って身に付く内容構成とし、就職活動において起こりうる様々な問題への対処方法を明示し、就職活動における基本的な姿勢の習得に努める。

#### (iv) 「Placement Guide」「就職状況資料」の作成

就職活動に際して必要な知識を網羅した「Placement Guide」を作成し、就職活動に際して想定される様々な問題へ対処できるようにする。上記就職ガイダンスもこの「Placement Guide」に沿って実施していく。

また、「就職状況資料」は、前年度の本学における就職状況の詳細、卒業生の最近10年間の進路先を明記しており、学生の進路選択のひとつの指針として欠かせない資料である。3年生の就職希望者全員と希望する保護者に配付する。

#### (v) 内定者活動報告記録

4年生内定者による就職活動報告記録をまとめて3年次生に配付する。就職活動を終えたばかりの4年生の言葉は、就職活動を目前に控えて不安が大きい3年生にとって、何よりの参考となる。

#### (vi) 面接対策セミナー

企業採用責任者の講演を聴き、企業の求める今日的な人材像、採用面接における企業側の視点についての認識を深める。

#### (vii) 実践模擬面接（個人）

企業採用担当者を講師として、実際の面接場面を想定した面接を実施し、それに対する助言を得ることで、学生が自分の長所、短所を自覚し、自分らしさを相手に伝える表現力を養う。

### (2) 実施体制

初年次教育、キャリア教育科目をカリキュラム内に設置し、これらの検討と運営を担う教員組織を設け、学生部就職課との連携により、これらの科目を実施している。社会の実情を見極め、変化に即して柔軟に対応する、全学的で教学一体のキャリア教育推進が可能な体制となっている。

## 5. 本取組の評価体制・評価方法

### (1) 評価体制

授業に対する学生の満足度調査、Webアンケート等、本取組の実効性について検証、評価する体制を構築している。さらに、就職課が恒常的に取り組んできた就職状況の調査結果と合わせた評価・分析については、現在検討中である。これらの作業は前項で述べた科目担当教員の組織が中心となって行う。

### (2) 評価方法

授業の効果については、ほぼ毎回行うアンケートと授業改善のための学生アンケートにより検証する。また、学生生活満足度調査（2年次と4年次）、就職意識に関するWebアンケートにより、学生の勉学に対する意欲やキャリア意識の変化を検証する。就職課が行っている就職状況の調査により、これらの支援が希望業界、職種への就業と関連しているかを検証する。

## 6. 本取組の実施計画等

### (1) 実施計画

本取組では、学生の職業観育成、就職についての実践力涵養についての効果を実証するため、より一層、教学一体の体制強化を図るとともに、内容が充実した授業内講演の開催、社会の実情を知るための講座、アセスメントを実施するなどして、学生に様々な価値観を提示しつつ、一人ひとりが豊かに生きるための社会人基礎力向上を目指すものである。

本取組の実施計画は次のとおりである。

- ① 4月 「就職状況資料」作成、配付
- ② 4月～7月 キャリアプランニングⅠ（授業科目）  
の実施
- ③ 5月 公務員ガイダンスの実施
- ④ 5月～4月 就職ガイダンス1回～7回開催
- ⑤ 7月 「Placement Guide」の作成、配付
- ⑥ 10月～1月 キャリアプランニングⅡ（授業科目）  
の実施
- ⑦ 10月 「内定者活動報告記録」作成、配付
- ⑧ 2月 面接対策セミナーの実施
- ⑨ 2月 実践模擬面接（個人）の実施

各取組において、事後アンケートを実施することにより評価・検証を行い、時代の変化に柔軟に対応する次年度計画を策定する。

### (2) 財政支援期間終了後の展開

保護者による進路支援に関わる財政支援体制を整備し、財政支援期間終了後も、社会の要請に柔軟に対応し、学生が満足できる進路決定のために、学生一人ひとりを全学で支援する体制を構築する。

また、キャリア形成支援と正課教育をより統合的に推進していく方策を本取組の評価・検証を通じて考え、実施していきたい。

